



第3部

地区別計画

1 釜石地区

地区の概要

区分	釜石地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約14km ²	約3% (440.34km ²)
令和7年人口	4,134人	14.6% (28,277人)
対令和2年減少率	△13.7%	(△12.7%)
地域高齢化率	47.1%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



釜石地区

新浜町1～2丁目、東前町、魚河岸、浜町1～3丁目、港町1～2丁目、只越町1～3丁目、天神町、大只越町1～2丁目、大町1～3丁目、大渡町1～3丁目、鈴子町、駒木町、松原町1～3丁目、嬉石町1～3丁目、大平町1～3丁目、大字釜石第16地割

前期期間の振り返り

懇談会や公民館事業を通じて住民交流を促進するとともに、青葉通り・県道釜石港線の環境整備(花の植栽など)や清掃活動を行い、環境美化に努めています。

また、公民館や青葉ビルを活用した交流の場を提供し、関係機関と連携した見守りサービスを実施しています。地区内高齢化率が高まっていることから、高齢者の居場所づくりや安全・安心な環境づくりに継続して取り組む必要があります。

地区の特色

釜石地区の東部は、戦後の復興事業として県内に先駆けて、道路や公園などの都市基盤整備が進められてきた地区であり、当市の中心的な役割を担ってきた歴史のある市街地です。また、鈴子地区には釜石駅が所在し、当市の玄関口として重要な役割を果たしています。

東日本大震災では市庁舎や消防庁舎、市民文化会館、市営駐車場など、多くの公共公益施設が甚大な被害を受けましたが、大多数の市民の声を踏まえ、安全面を最大限に配慮しつつ、市庁舎を配置するなど釜石の「拠点」として位置付けられています。

地区内には18棟の復興公営住宅があり、市内・市外各地からの居住者が混在し、新しい地域コミュニティの形成が必要となっています。

また、釜石地区は大型公共的施設等が存在し、生活環境に恵まれていることから、家族に頼らなくても暮らせるため、復興公営住宅住民の高齢化率は非常に高く、独居高齢者等が増加傾向にあります。

地域の主要な課題

- 安全・安心な環境づくり
- 高齢者の居場所づくり、見守り体制の強化
- 中心市街地としての魅力向上
- 地域活動の持続化
- 町内会住民と復興公営住宅住民の融和・連携
- 駅前公共施設等の利活用

基本方針

住民一人ひとりが元気で輝くまちづくり

基本目標

「声をかけ合い」「助け合い」「支え合える」まち

地域による取組（自助）

- 町内会活動・復興住宅自治会活動、地域行事への積極的な参加
- 健康寿命延伸のための自主的取組（いきいき100歳体操及び各種サロン活動への積極的な参加）
- お隣さん同士・ご近所の交流（声掛け・見守り等）
- 復興公営住宅を中心とした三防（防孤立・防災・防犯）を目的に行う見守り活動

協働による取組（互助・共助）

- 住民主体の生活支援サービス（買い物代行、ごみ出し支援）の提供
- 地域会議を本部とした小学生の見守り活動の実施
- 地域のコミュニティ形成（地域行事・サロン活動・環境整備活動など）
- 地域交流イベント等の実施
- かまいし絆会議 釜石中学校学区合同クリーン作戦の実施

行政による取組（公助）

- 地区センター会議の開催による地域の福祉的課題解決に向けた取組
- 多様なコミュニティ参画機会の提供（公民館事業等の実施、自主活動団体などの支援）
- いきいき100歳体操普及のための活動支援
- 防災意識の醸成

多世代の参画による地域活動

- 地域交流イベントの実施
- 定期的な公園等の清掃
- 郷土芸能の継承

2 平田地区

地区の概要

区分	平田地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約26km ²	約6% (440.34km ²)
令和7年人口	3,116人	11.0% (28,277人)
対令和2年減少率	△11.8%	(△12.7%)
地域高齢化率	35.8%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



前期期間の振り返り

令和3年11月から、行政・社会福祉法人・住民が協働し、社会的孤立の予防や心身の健康促進を目的とした「つながるカフェ」を運営するなど、多様な主体が連携し、地域で支え合う取組が行われています。

また、福祉教育を通じた学校等との連携も広がり、地域のネットワークづくりが進んでいます。東日本大震災やコロナ禍で休止していた伝統行事の再開が進み、多世代が関わる持続可能なコミュニティ形成が推進されています。

地区の特色

平田地区は、上平田ニュータウン町内会、上平田町内会、平田町内会、尾崎白浜町内会、佐須町内会の5つの町内会により構成されています。

本地区には、平田埋立地があり、沿岸南部クリーンセンター、岩手大学三陸水産研究センター、岩手県水産技術センター等多くの公共施設や研究機関等が立地しています。

また、国道45号沿いには平田総合公園が整備されており、広く利用されています。

地区内には、復興公営住宅や定住促進住宅など公営住宅等が複数あり、被災者や移住者など多様な背景を持つ人が共に暮らしています。

震災後に建設された平田地区生活応援センターでは、仮設住宅のコミュニティから立ち上がったボランティア団体やサロン活動が盛んに行われており、高齢者の居場所づくりや独居高齢者の引きこもり防止に重要な役割を担っています。

また、地区内や近隣には、こども園、小学校、中学校、高校、特別支援学校があり、世代間交流事業や介護施設等でボランティア活動を行うなど、地域住民と交流の機会が多いことも特色の一つです。

地域の主要な課題

- 地域コミュニティの維持・継続
- 交通弱者への対応
- 伝統行事・郷土芸能の継承
- こどもから高齢者まで多様な居場所づくり
- 安全・安心の確保、災害発生時の避難体制の構築

基本方針

みんなで仲良く暮らし、高齢者にやさしい地域

基本目標

全ての人が健康で安心して暮らせるまち

地域による取組（自助）

- 住民同士の交流（あいさつ・声掛け・見守り）
- 町内会活動、地域交流行事等への積極的な参加、世代間交流の実施（園児・小中高生との交流事業）
- 健康寿命を延ばすため、個々が健康づくりに取り組む（いきいき100歳体操、健康教室、サロン活動への参加など）
- 地域公共交通の利用
- 避難場所の確認、避難訓練等の実施

協働による取組（互助・共助）

- コミュニティ形成のための事業の実施（地域交流行事・サロン活動・環境整備活動など）
- 行政・社会福祉法人・地域住民による多機能コミュニティカフェ「つながるカフェ」の継続
- 登下校時の子どもや高齢者の見守りの実施
- 郷土芸能・伝統行事の継承
- 車を持たない高齢者の移動支援
- 災害時要援護者の支援
- 自主活動グループ行事の開催
- 各団体活動の継続（主体となる組織の担い手育成）

行政による取組（公助）

- 地域課題の抽出・解決に向けた事業実施や協力
- 多様なコミュニティ参画機会の提供（公民館事業の実施、団体・グループ等の活動支援、地域交流行事・活動の支援・公民館だよりによる啓発、情報提供）
- いきいき100歳体操など住民の健康づくりへのサポート
- 様々な相談機会の創出（なんでも相談会、随時の相談対応等）
- 地域公共交通の維持運用
- 災害時の避難者対応など
- 防災意識の醸成

多世代の参画による地域活動

- 多機能コミュニティカフェ「つながるカフェ」（地域住民、平田こども園、平田小学校、大平中学校、釜石祥雲支援学校、釜石商工高校）
- 平田公民館まつり（地域住民、園児・小中学生・釜石祥雲支援学校等）
- 各種公民館事業
- 各種郷土芸能活動
- 平田にここ食堂（こども、地域住民）

3 中妻地区

地区の概要

区分	中妻地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約6km ²	約2% (440.34km ²)
令和7年人口	3,247人	11.5% (28,277人)
対令和2年減少率	△18.2%	(△12.7%)
地域高齢化率	41.5%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



中妻地区

千鳥町1～2丁目、中妻町1～3丁目、八雲町、上中島町1～4丁目、源太沢町1～2丁目、住吉町、新町、礼ヶ口町

前期期間の振り返り

国や岩手県が公表した「日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波浸水想定」において、千鳥町から上中島町の一部が津波浸水区域に含まれることとなりました。これを受け、中妻地区内の町内会、小・中学校、保育・福祉施設、事業所などが合同で津波避難訓練を実施するなど、避難の重要性や自主防災意識の向上が図られています。

今後も津波避難訓練を継続し、震災の教訓を忘れず、防災意識の更なる向上に努めることが求められています。

地区の特色

中妻地区は、釜石地区の西隣に位置する市街地で、中央部を国道が通り、住宅地のほか商業施設、工場、官公署などが立地しています。このため、仕事、買い物、食事、通院、諸手続きなどができる利便性の高いエリアであり、人の行き来が多い地区です。

地域には、小・中学校、児童館、保育施設、障がい者の就労支援施設や福祉作業所などがあり、教育や福祉の面で充実しています。また、5棟の復興公営住宅が整備され、東日本大震災で被災された方々が生活の拠点を移しています。

交通面では、バスの便が良好であるほか、三陸縦貫自動車道のインターチェンジがあり、当市中心部への玄関口として交通の要所となっています。

一方、大雨による土砂災害の発生や、日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの津波による津波浸水想定において、中妻地区の一部で津波の浸水が想定されているなど、防災対策が強く求められています。また、甲子川が氾濫し橋梁が倒壊した際に孤立する地域もあるため、迂回して避難できるルートを確保することが求められます。

地域の主要な課題

- 安全・安心の確保
- 地域コミュニティの維持・継続
- 見守り、支え合いの充実
- 交通弱者への対応
- 地元住民と復興公営住宅住民との協働の推進
- 地域資源を活用した交流機会の創出
- みんなの居場所づくり
- 地域防災力の向上・防災対策
- 郷土芸能（八雲神楽）の継承

基本方針

皆でつくる
安全・安心な 笑顔あふれるいきいき地域

基本目標

- 安全な生活環境を整え、安心して暮らせるまちづくり
- 健康でいきいき暮らせるまちづくり

地域による取組（自助）

- 各種活動への自主的な参加（町内会活動、地域交流活動、公民館事業等）
- 隣近所との交流（あいさつ、声掛け等）
- 防災意識の向上（避難場所の確認、避難訓練への参加等）

協働による取組（互助・共助）

- 地域コミュニティによる事業の実施（町内会活動、環境整備事業等）
- 自主活動グループの活動継続、新たなグループの結成
- 見守り隊や住民同士による見守り活動の継続実施
- 自主防災組織の結成
- 中妻地区地震津波避難訓練等の実施
- かまいし絆会議 釜石中学校学区合同クリーン作戦の実施

行政による取組（公助）

- 生活支援コーディネーターと連携した地域課題の抽出及び課題解決に向けた取組
- 公民館活動の実施（外出機会の提供、自主活動グループの活動支援、公民館だよりによる啓発、情報提供）
- 様々な相談機会の創出（健康サロン、随時の相談対応等）等、健康づくりへの支援
- 防災意識の醸成

多世代の参画による地域活動

- 郷土芸能（八雲神楽）の継承
- クリスマススタンプラリー
- 上中島フェスティバル
- 教育、保育、福祉事業所と連携した地域活動
- なかよし食堂
- 公民館まつり
- ラジオ体操

4 甲子地区

地区の概要

区分	甲子地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約75km ²	約17% (440.34km ²)
令和7年人口	5,422人	19.2% (28,277人)
対令和2年減少率	△10.6%	(△12.7%)
地域高齢化率	37.3%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



甲子地区

甲子町第1～10地割、唐丹町(川目の一部)

前期期間の振り返り

東部寄りの地区では、自主グループや地域コミュニティの活動を通じた自己啓発が盛んに行われています。

一方、旧大橋出張所管内では人口減少・高齢化の進行に伴い、活動の機会が減少しています。自治会組織では、防犯灯の設置や更新に力を入れて取り組んでおり、地区内の小・中学校とも連携し、交通安全活動などを通じて地域の安全・安心な環境づくりに努めています。

地区の特色

甲子地区は、かつては釜石街道の入り口となる宿場として栄え、また釜石鉱山の鉄鉱石等の採掘や釜石製鉄所のベッタウンとして人口が増加した地区です。

現在は最盛期より大幅に人口は減少しているものの、東部寄りの一部地域では住宅開発が進んでいることや東日本大震災による沿岸部からの移住などにより、人口増加に加え年少人口比率が高い地区となっています。

一方、旧大橋出張所管内の西部については、高齢者世帯や独居高齢者が年々増加し、市内でも高齢化率が高くなっており、年齢別人口の二面性を持った地区となっています。

当地区にある仙人峠は、新緑、紅葉が美しく、地区を縦断する甲子川は鮎やヤマメ等の渓流魚が生息する川として親しまれています。

また、当市の特産品である甲子柿、仙人秘水の生産地であるほか、釜石鉱山の選鉱場跡や旧釜石鉱山事務所の産業遺構など、自然や歴史・文化が豊富な地区となっています。

地域の主要な課題

- 人口減少と高齢化
- 単身高齢者世帯の増加
- 安全・安心の確保
- 人材育成
- 地域コミュニティの維持

基本方針

みんなで支え合う持続可能な甲子づくり

基本目標

地域で助け合い 人に優しく安心して将来に希望を持てるまち

地域による取組（自助）

- 町内会、老人クラブ、自主活動等へ積極的に参加
- 地域行事、郷土芸能などへの積極的な参加
- 近隣住民への気遣い（声かけ、見守り等）
- いきいき100歳体操や健康講座や健康料理教室等への参加
- スポーツやレクリエーションを通じた健康促進と孤独化防止
- 交流機会の創出を目的に甲子地区民生児童委員協議会が「まつくらサロン」を主催

協働による取組（互助・共助）

- 地域コミュニティを活用した事業実施（地域交流事業、環境整備等）
- 地域行事、郷土芸能の継承
- 住民による地域の在り方を検討
- 住民同士の見守り活動（声かけ、見守り等）
- 災害時を想定した地域ごとの取り組み検討
- 防犯灯の設置、更新等による安心安全な地域づくり

行政による取組（公助）

- 地域課題の抽出及び問題解決への取組
- 公民館事業、保健・福祉事業の案内及び実施
- 地域行事、郷土芸能活動への支援
- 地域コミュニティ形成への支援
- 各種災害時の避難行動等の情報提供

多世代の参画による地域活動

- 松倉神社まつり、みづき団子祭りなどの伝統を引き継ぐとともに、交流人口の拡大を目的とした新たな賑わいイベントの創出
- 定期的な地域内の草刈、花の植栽、清掃等の環境美化活動
- 郷土芸能の継承
- 中学・高校生と地域住民、公民館等による多世代交流活動を推進し、地域コミュニティの継続と活性化を推進
- 地区小・中学生との地域との連携による交通安全活動

5 小佐野地区

地区の概要

区分	小佐野地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約45km ²	約10% (440.34km ²)
令和7年人口	6,488人	22.9% (28,277人)
対令和2年減少率	△13.9%	(△12.7%)
地域高齢化率	41.6%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



小佐野地区

野田町1～5丁目、定内町1～4丁目、甲子町第11～12地割・第14～16地割、小佐野町1～4丁目、小川町1～5丁目、桜木町1～2丁目

前期期間の振り返り

「見守り体制の強化」に関する活動の一環として、認知症の方を支援する「チームオレンジ・こさの」「チームオレンジ・こさのジュニア」が組織され、積極的に取り組んでいます。また、公民館や集会所では地域の自主活動が活発に行われ、盛り上がりを見せています。

しかしながら、参加者が固定化・偏在化する傾向が見られるため、一部の方だけではなく、老若男女問わず幅広い世代が参加しやすい企画を考案し、継続していくことが求められています。

地区の特色

小佐野地区は公共機関や小学校、駅、金融機関、病院、介護施設などがあり、生活上の利便性が高く、釜石製鉄所の発展とともに都市化が急速に進んだ地域です。

小佐野地区には18の町内会があり、介護予防の取組や防犯活動等地域福祉活動が活発に行われ、良好なコミュニティが形成されているほか、住民が主体となり生活支援サービスを提供する地域包括ケアシステム^{*}の基盤となる仕組みが構築されています。

一方、高齢化の進行に加え、独居高齢者の増加によって、地域活動の衰退や地域からの孤立等将来に不安を抱える地域住民も多い状況です。

その他、伝統芸能である小川鹿踊りは小・中学生によって継承され、地区行事等で演舞を披露する等地域の文化資源として大切に伝承されています。また、ホテルが生息する「ワッカラ淵」は、こどもたちの自然学習の場となっており、歴史ある伝統や豊かな自然環境も地域の特色の一つとなっています。

地域の主要な課題

- 見守り体制の更なる強化
- 住民同士の良好なコミュニケーション作り
- 伝統芸能（小川鹿踊り）の継承
- 高齢者及びこどもの居場所づくり
- 環境保全活動の継続・維持（絆の日清掃含む）
- 災害時要援護者への支援体制再構築

基本方針

地域とのつながりを大切にし、
誰もが暮らし続けたいと思えるまち

基本目標

全ての人が安心して暮らせるまち

地域による取組（自助）

- 積極的な町内会活動への参加
- 健康寿命延伸のための自主的取組（いきいき100歳体操や各種サロン活動への参加）
- 心配な世帯への積極的な声掛け、さり気ない見守り

協働による取組（互助・共助）

- 住民主体の生活支援サービス（買い物代行、ごみ捨て、サロン活動）の提供
- 地域会議を核とした小学生の見守り活動の継続実施
- 町内会による見守る・支えるネットワークの構築
- 自主防災組織の結成

行政による取組（公助）

- 地区センター会議の開催による地域の福祉的課題解決に向けた取組
- 後継不足に悩む町内会の再編化等活動継続支援
- いきいき100歳体操普及のための活動支援
- 地区生活支援コーディネーターと連携した地域課題の掘り起こし
- 専門的見守りの実施及び状況に応じた支援
- 他地域との交流を促進するためのイベントの企画
- 地域が賑わいであふれ、住民の元気や活力の向上につなげるため、公民館まつりを継続開催し、さらにその内容の充実、発展を図る

多世代の参画による地域活動

- 多世代が参加し、交流機会を創出するための餅つき大会、盆踊り、賑わいイベントなど地域行事への新たな提案
- 町内会独自の避難訓練の推進と実施
- 公園や河川の定期的な清掃、環境美化活動
- ゲンジボタルの生息地を守るための自然環境保全の呼掛け
- 伝統芸能（小川鹿踊り）に触れる機会の創出

6 鵜住居地区

地区の概要

区分	鵜住居地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約64km ²	約15% (440.34km ²)
令和7年人口	3,575人	12.6% (28,277人)
対令和2年減少率	△5.4%	(△12.7%)
地域高齢化率	38.3%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



鵜住居地区

鵜住居町第1～30地割・1～5丁目、両石町第1～5地割、片岸町第1～10地割、箱崎町第1～13地割

前期期間の振り返り

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行するまで、様々な活動が制限され、地区全体に閉塞感が漂っていましたが、徐々に日常を取り戻し、地区内の活動も活発になっています。

コロナ禍以降、認知症サポーターチームの結成、公民館事業の積極的な取組、うのすまい公民館まつりの再開、トモスマルシェが盛況になることなどを通じ、地域コミュニティの活性化や高齢者支援が推進されています。

地区の特色

鵜住居地区は、鵜住居町、両石町、片岸町、箱崎町の4つの区域で構成され、海・山・川に恵まれた自然豊かな地区です。東日本大震災以前は、6千人余りの人口の中で、自然環境を生かした第一次産業、スーパー等の商店、金融機関、自動車関連企業等の第三次産業が営まれていました。

東日本大震災により鵜住居地区は、市内で最大の被害がありましたが、様々な公共施設整備が行われ、復興公営住宅建設や宅地造成、幼稚園、小・中学校、三陸縦貫自動車道、釜石鵜住居復興スタジアム、うのすまい・トモス、根浜海岸観光施設などが完成しました。

産業面では、基幹産業である漁業は水揚げ量の減少や担い手不足、事業所の廃業等による買い物環境悪化の課題がある一方、高速交通網の整備に伴う企業立地や既存観光資源と新たな各種施設を活用した観光振興が進められています。

生活面では、震災前から町内会活動や地域でのスクールガード、高齢者の見守り活動が活発に行われていましたが、震災による人口減少と高齢化による地域コミュニティ力の低下が懸念されており、誰もが安心して暮らせるまちづくりが求められています。

地域の主要な課題

- 地域コミュニティ力の低下
- 高齢者対策（健康づくり、居場所づくり、見守り体制の構築）
- 災害発生時の避難体制構築

基本方針

住民がいきいきと元気に安心して暮らせるまち

基本目標

- ・多様な住民による地域活動と健康づくりが行われるまち
- ・誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるまち

地域による取組（自助）

- 町内会活動への参加、世代間交流の促進
- 地域資源の再認識
- 健康・居場所づくり活動、認知症サポーターチームへの参加及びサポーター養成講座への参加
- 隣近所への声掛け、見守り
- 自主防災組織の結成及び再開
- 公民館事業への参加

協働による取組（互助・共助）

- 各種町内会行事の開催
- 地域イベントへの協力（環境整備、公民館まつり、郷土芸能、盆野球、盆踊り、トモスマルシェなど）
- 地域ごとの見守り体制の構築（認知症高齢者、災害時避難行動要支援者）
- 自主活動グループ行事の開催
- 関係機関との連携による復興住宅住民の見守り
- 公民館事業への参加による新たなコミュニティづくり、健康づくり
- 外出困難者への移動支援の構築

行政による取組（公助）

- 地域課題解決に向けた事業実施や協力
- いきいき100歳体操など健康づくり活動への支援
- 要支援・要介護認定者世帯のケア
- 妊産婦、乳幼児など子育て世帯のケア
- 認知症サポーターチームの活動支援とサポーター養成講座の開催
- 災害時の避難者支援、情報提供、自主防災組織への活動支援
- 公民館事業の実施

多世代の参画による地域活動

- うのすまい公民館まつり
- 各種郷土芸能活動、盆野球、盆踊り
- 環境整備活動
- 認知症カフェ（ともすカフェ）
- 各種公民館事業
- トモスマルシェ
- 認知症サポーター「チームオレンジ・はまぼうふう」

7 栗橋地区

地区の概要

区分	栗橋地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約129km ²	約29% (440.34km ²)
令和7年人口	949人	3.4% (28,277人)
対令和2年減少率	△15.8%	(△12.7%)
地域高齢化率	50.4%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



栗橋地区

橋野町第1～43地割、栗林町第1～24地割

前期期間の振り返り

コロナ禍により、多くの地域活動や行事が自粛され、全世代において社会とのつながりが希薄化しました。

しかしながら、令和5年5月に感染症法上の分類が5類感染症へと移行したことで、公民館活動をはじめ、地域交流、伝統行事、文化活動などが再開し、地域コミュニティの活性化に向けた取組を進めています。

地区の特色

栗橋地区は世界遺産である橋野鉄鉱山をはじめとした製鉄関連遺産や、一揆の指導者にまつわる史跡のほか、和山高原や巨樹古木などの自然景観に囲まれ、山里の生活文化を今に伝える農林業を中心とした集落です。

栗林地区は、東日本大震災後、沿岸部からの移住者により一時的に人口の増加がみられましたが、若年層の人口流出などの要因から地域コミュニティの維持が困難になりつつも、住民有志による支え合いの活動グループを立ちあげるほか、趣味を生かした活動による地域の実情に合った活動が行われています。

また、橋野町は、少子高齢化が進み集落によっては住民の過半数が高齢者という地域もありコミュニティの維持、活力の向上が喫緊の課題となっています。県外からも多くの観光客が訪れる橋野鉄鉱山を軸に地元の産地直売所などを会場とした地域おこしイベントを開催するなど、交流人口の増加とコミュニティの活性化に取り組んでいます。

地域の主要な課題

- 人口減少と少子高齢化
- 地域コミュニティの維持継続
- 公共交通対策と道路整備
- 野生鳥獣の被害対策
- 地域資源の活用による活性化
- 橋野小・中学校校舎の解体と有効活用
- 屯所及び避難所機能の充実
- 市営和山牧場の活用
- 空家・耕作放棄地*の増加
- 漬物文化の存続
- 郷土芸能の伝承

基本方針

人がつながり支えあい笑顔あふれるまちづくり

基本目標

地域に誇りを持ち 安心して暮らすことができるまち

地域による取組（自助）

- 世代間の交流機会の創出、地域行事の運営
- 文化財や史跡、郷土芸能の保護伝承
- 地域清掃、花壇整備などの環境美化活動
- 認知症サポーター「チームオレンジくりはし」による活動
- 地域のきずなを生かした見守り体制づくり
- 避難訓練の実施、自主防災組織の運営
- 各自主活動グループの活動の継続
- スクールガードによる児童の見守り
- 道路愛護活動
- 産地直売所を核とした農業振興

協働による取組（互助・共助）

- コミュニティ維持、活性化の場づくり
- 住民同士の見守り、支え合いの体制づくり
- 学童、学校、地域が連携した子育て支援
- 災害時要支援者避難支援
- 地域資源、地域の魅力発信
- こども食堂「栗っ子カフェ」の運営
- 和山高原の活用及び水源涵養機能の維持
- 公民館やさわやかトイレなど公共施設の管理運営
- 防災啓発活動の推進

行政による取組（公助）

- 子育て世代や高齢世帯に対する相談支援
- 地域課題の抽出と解決に向けた取組
- 公民館事業など多彩なイベントの提供
- 生活習慣病予防対策など健康づくりの推進
- 健康づくり、認知症、子育てに関する学習機会の提供
- 防災に係る学習機会の提供

多世代の参画による地域活動

- さんあいまつり、栗林町納涼大会
- はしの四季まつり
- 郷土芸能伝承活動
- 橋野鉄鉱山フラワーガーデンや親水公園の運営
- 橋野鉄鉱山清掃活動、育樹祭
- 地域学習会
- どんぐり苗の植樹活動
- 水車まつり

8 唐丹地区

地区の概要

区分	唐丹地区	全市に占める割合 (全市)
面積	約81km ²	約18% (440.34km ²)
令和7年人口	1,346人	4.8% (28,277人)
対令和2年減少率	△14.6%	(△12.7%)
地域高齢化率	48.5%	(41.1%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



唐丹地区

花露辺、本郷、大曾根、桜峠、小白浜、片岸、川目の一部、山谷、下荒川、荒川、上荒川、向、大石、屋形

前期期間の振り返り

地域食堂「唐丹はぐるまの会」の活動がスタートし、こどもの居場所づくりの取組が進むとともに、地域行事等を中心に世代間交流が促進され、地域活性化につながっています。

また、認知症の方々だけでなく、全ての世代を温かく見守ることを目的に『チーム おれんじ・とうに』が結成され、安全・安心のための見守り強化の意識が醸成されています。一方、人口減少・高齢化が進行していることから、特に持続可能な交通手段の確保が急務となっています。

地区の特色

唐丹地区は、海・山・川に隣接した7つの集落から形成されています。

唐丹町の人口は昭和30年の釜石市との合併当時には4,000人を超えていましたが、現在は約1,350人となっています。主要産業である漁業は、東日本大震災の影響や近年の水揚げ量の減少、担い手不足などから従事者が減少しています。

東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、避難生活や復旧・復興の過程において、住民相互の支え合い・助け合いといった地域のコミュニティが何よりも大きな力となりました。復興事業により、漁港や新しい小・中学校、住宅の整備が進んだほか、三陸沿岸道路の開通で市街地などへの往来が便利になった一方、依然として地区の高齢化は進行しており、住み良い持続可能なまちづくりが求められています。

また、唐丹には300年以上の歴史をもつ「釜石さくらまつり」のほか、多彩な行事や芸能があり、それらが育まれた背景にはかつて伊達藩と南部藩が交流していた唐丹ならではの歴史があります。

地域の主要な課題

- 地域コミュニティの維持・継続
- 人口・世帯の減少と少子高齢化 (集落維持・児童・生徒数の減少・単身高齢者の増加)
- 水産業の振興 (水揚げ量の減少・漁協組合員の減少)
- 耕作放棄地の増加
- 被災跡地の未利用
- 持続可能な交通手段の確保
- 獣害対策
- 郷土芸能継承と担い手の確保

基本方針

住み良い唐丹づくり

基本目標

住民が、安心安全で いきいきと暮らすことができるまち

地域による取組（自助）

- 隣近所との交流（あいさつ・声掛け・見守り）
- 町内会活動、地域交流行事等への積極的な参加
- 健康寿命を延ばすため、個々が健康づくりに取り組む（健康教室・サロン活動への参加など）
- 地域公共交通の利用
- 防災意識の向上

協働による取組（互助・共助）

- 各団体活動の継続（担い手育成・役割分担）
- コミュニティ形成のための事業の実施（地域交流行事・サロン活動・環境整備活動など）
- こども・高齢者の見守りの実施（チームおれんじ・とうにの活動、駐在所連絡協議会の取組）
- 災害時要援護者への支援
- 郷土芸能・行事の継承
- 車を持たない高齢者等の移動支援（インフォーマル）

行政による取組（公助）

- 地域課題の抽出・解決に向けた取組（地区センター会議の開催、生活支援コーディネーターとの連携）
- 多様なコミュニティ参画機会の提供（公民館事業の実施、出張公民館の実施、団体・グループ等の活動支援、地域交流行事・活動の支援・情報提供）
- 地域人材の発掘（ものづくり指導者・地域リーダー）
- 住民の健康づくりをサポート
- 災害時の避難者対応など
- 地域公共交通の維持運用
- 地域資源の活用
- 空き家・公営住宅の利活用推進

多世代の参画による地域活動

- 地域行事の継承（釜石さくらまつり・小正月行事・夏祭りなど）
- 地域交流行事の継承（唐丹夢あかり・唐丹の日・スカットボール大会など）
- 定期的な海岸や河川などの清掃・稚魚放流、花の植栽などの環境美化活動
- 郷土芸能の継承
- 唐丹はぐるまの会（こどもの居場所づくり・世代間交流・地域食堂）